
サマーカットにしてから毛が伸びず、
徐々に毛が薄くなってきたポメラニアンの場合

池 順子 吉田動物病院（日本獣医皮膚科学会認定医）

症例 ポメラニアン（3歳齢、去勢雄、体重 2.5kg、室内飼育）

問診票から

- サマーカットにしてから毛が伸びず、徐々に毛が薄くなってきた。
- 痒みはなく、一般状態は良好。



図 1. 頸部の毛は薄く、被毛は光沢を失い乾燥。



図 2. 大腿尾側と肛門周囲の脱毛。

臨床症状（図 1～2）

- ・頸部、大腿尾側、尾の不完全な脱毛と色素沈着。
- ・乾燥した光沢のない被毛。

皮膚科学的検査

- 皮膚掻爬検査：陰性。
- 塗抹細胞診：特記すべき異常を認めず。

血液検査・血液化学検査

- 特記すべき異常を認めず。

尿検査

- 特記すべき異常を認めず。

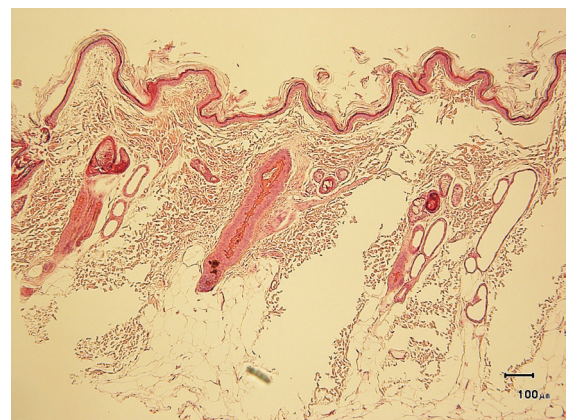


図 3. 毛包の萎縮と、表層部、毛漏斗の過角化。

治療および経過

病歴および臨床症状より毛周期停止を、鑑別疾患として内分泌疾患を疑いました。ACTH 刺激試験を行ったところ血中コルチゾール値は Pre7.3 $\mu\text{g/dL}$ 、Post18.6 $\mu\text{g/dL}$ 、甲状腺機能検査では T4 2.2 $\mu\text{g/dL}$ 、fT4 30.9 pmol/L、c-TSH 0.16ng/mL と正常範囲内でした。病理組織学的検査では著しい毛包の萎縮と表層部、毛漏斗の過角化を認めました（図 3）。臨床症状および各種検査結果より、毛周期停止と診断しました。



図 4、5. 脱毛部の皮膚に色素沈着がみられる。



メラトニンを3mg/kgで1日1回3カ月間投与を行いました。改善はみられず、投与回数を1日2回に増量しさらに3カ月間投与を継続しましたが発毛は認められませんでした(図4、5)。

そこでメラトニンを休薬し、Rhizopus 麴由来物質のサブ

リメントを1日2回(1/2錠)で投与を開始したところ投与開始28日目には背部に部分的な発毛を認め、投与開始70日目には頸部、背部、胸腹部、大腿尾側と広範囲に発毛がみられました。投与開始199日目には全身的な発毛を認め、その後投与回数を1日1回に減量しました(図6、7)。



図6、7. 光沢のある被毛の再生を認める。

■ 本症例へのアプローチ

毛周期停止では体幹部を中心とした非炎症性の進行性、両側対称性の内分泌疾患とよく似た脱毛がみられます。病因が明らかにされていないため様々な治療法が試みられていますが、治療に対する反応は症例ごとに異なります。現在発毛が期待できる治療法として中性化(去勢手術/避妊手術)や、メラトニン、ミトタン、トリロスタン等の投与が行われていますが、確実な治療法は確立されていません(表1)。また一度発毛しても再度脱毛する可能性があります。

本症例の治療に使用したサプリメントはRhizopusを培養した麴より得られた生理活性物質を精製したサプリメントで、伴侶動物に対して発毛育毛効果があり、毛周期停止に対してその効果が報告されています。本疾患は外観上の問題であるため治療を行わないことも選択肢の1つとなりますが、筆者自身はもともと毛がある部位に毛がない状態が続くよりはやはり毛がある方が皮膚のためにも良いのではないかと考え、去勢/避妊手術を受けていない犬に対しては中性化を、すでに中性化されている犬に対しては副作用の少ない治療法を提案しています。Rhizopus 麴由来物質のサプリメントも安全性の高い1つの治療選択肢になるのではないかと思います。

表1. 脱毛症Xに対する治療

治療法	有効率 (%)	副作用の可能性
中性化	50 ~ 70	
メラトニン	40	安全性が高い、糖尿病では禁忌
ミトタン	50	副腎の壊死
トリロスタン	87.5	比較的安全、副腎の壊死が起きる可能性がある
無治療		

